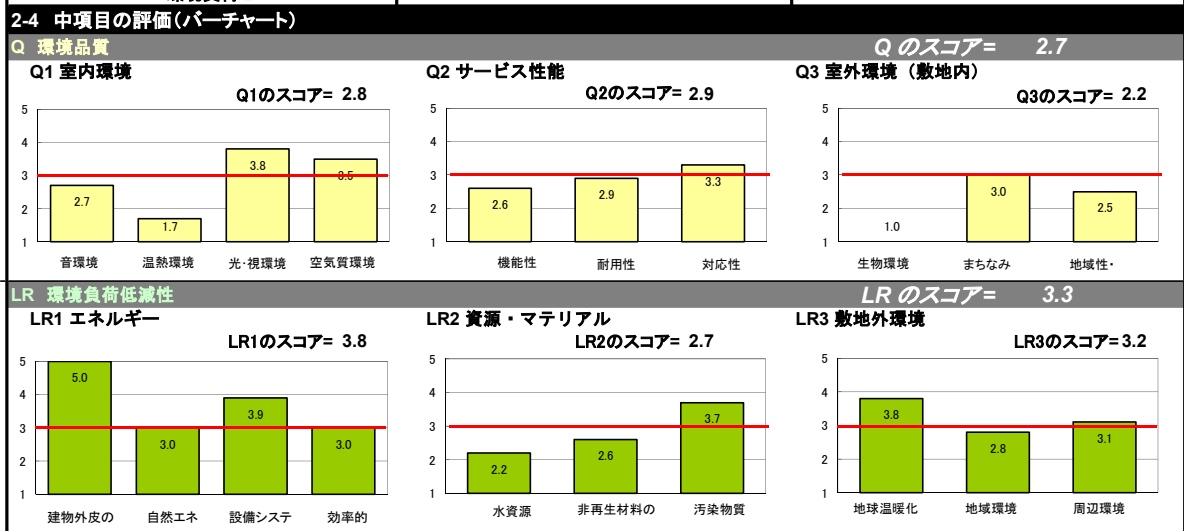
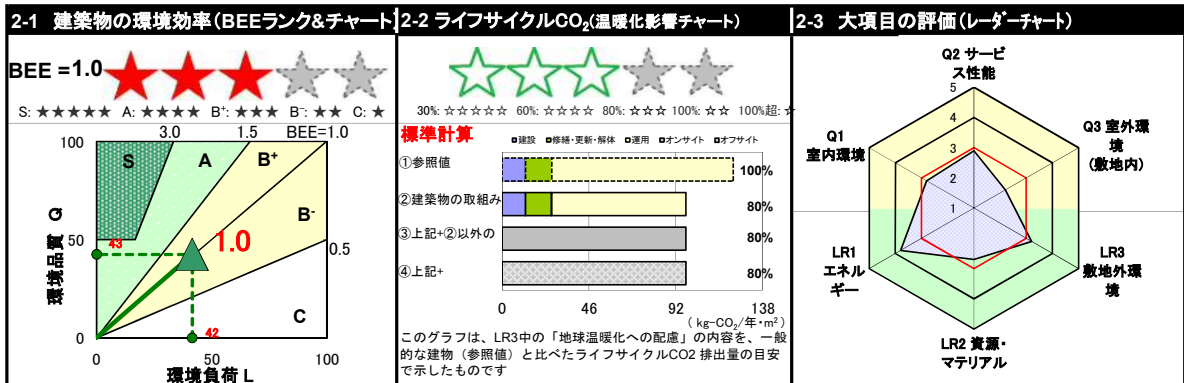


川崎市建築物環境配慮制度受付番号 17046

建築物名称	複合棟新築工事
建築主	日本冶金工業株式会社川崎製造所 取締役常務執行役員所長 堀内 晃
建築物の所在地	川崎市川崎区小島町4-2
設計者氏名、建築士事務所名	嘉陽 富男 ナスエンジニアリング株式会社 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	3,959.28m ²
用途	工場
構造	鉄骨造
階数	地上3階
工事完了予定年月	平成30年12月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

評価結果

1-1 建物概要				1-2 外観	17046
建物名称	複合棟新築工事	階数	地上3F	外観バース等 図を貼り付けるときは シートの保護を解除してください	
建設地	川崎市川崎区小島町4-2	構造	S造		
用途地域	工業専用地域、指定なし	平均居住人員	75 人		
地域区分	6地域	年間使用時間	2,110 時間/年(想定値)		
建物用途	事務所・集会所	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2018年12月 予定	評価の実施日	2018年1月31日		
敷地面積	418,520 m ²	作成者	嘉陽富男		
延床面積	3,959 m ²	確認日			



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.6
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	「緑化指針の基準に適合」 植栽による良好な景観形成 空地率:58.70%	1.8/4.3	2.1
2 まちなみ・景観への配慮			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	隣棟間隔指標:0.93	0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.6
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能		0.2/0.5	2.1
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.1 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	「緑化指針の基準に適合」 空地率:58.70%	0.6/2.3	1.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m :0.59	3.9/5.0	3.9
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI _m :0.74		
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	GL工法、LGS工法の採用	2.6/4.7	2.7
2 非再生性資源の使用量削減			
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	隣棟間隔指標:0.93	0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	2.8
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数		0.3/0.5	3.1
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	GL工法、LGS工法の採用	2.0/4.0	2.5
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4	2.4
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.7
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	「緑化指針の基準に適合」 空地率:58.70%	0.6/2.3	1.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m :0.59	3.9/5.0	3.9
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI _m :0.74		
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	隣棟間隔指標:0.93	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.7**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)	
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。			
建設段階				
Q-2 ■ サービス性能対策				
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0	
修繕・更新・解体段階				
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策				
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				
運用時のエネルギー				
LR-1 ■ エネルギー対策				
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m :0.59	3.9/5.0	3.9	
2 自然エネルギーの利用				
3 設備システムの高効率化				BEI _m :0.74
4 効率的運用				

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				環境配慮設計の概要記入欄					
配慮項目	重点項目				建物全体・共用部分	住居・宿泊部分	全体				
	G	W	R	H				評価点	重み係数	評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質							2.7				
Q1 室内環境							2.8				
1 音環境							2.7	0.15			2.7
1.1 室内騒音レベル							3.0	0.40			
1.2 遮音							3.2	0.40			
1 開口部遮音性能							3.0	0.87			
2 界壁遮音性能							5.0	0.13			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)											
4 界床遮音性能(重量衝撃源)											
1.3 吸音							1.0	0.20			
2 温熱環境							1.7	0.35			1.7
2.1 室温制御							2.5	0.50			
1 室温							4.0	0.38			
2 外皮性能							1.0	0.25			
3 ゾーン別制御性							2.0	0.38			
2.2 湿度制御							1.0	0.20			
2.3 空調方式							1.0	0.30			
3 光・視環境							3.8	0.25			3.8
3.1 昼光利用							2.4	0.30			
1 昼光率							2.0	0.60			
2 方位別開口											
3 昼光利用設備							3.0	0.40			
3.2 グレア対策							3.0	0.10			
1 昼光制御							3.0	1.00			
3.3 照度							4.0	0.18			
3.4 照明制御							5.0	0.42			
4 空気質環境							3.5	0.25			3.5
4.1 発生源対策							4.0	0.50			
1 化学汚染物質							4.0	1.00			
4.2 換気							3.0	0.30			
1 換気量							3.0	0.33			
2 自然換気性能							5.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮							1.0	0.33			
4.3 運用管理							3.0	0.20			
1 CO ₂ の監視							3.0	0.50			
2 喫煙の制御							3.0	0.50			

Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.9
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ				2.7	0.40		-	2.6
1	広さ・収納性			3.0	0.11		-	
2	高度情報通信設備対応			1.0	0.11		-	
3	バリアフリー計画			3.0	0.78		-	
1.2 心理性・快適性				1.6	0.30		-	
1	広さ感・景観			5.0	0.11		-	
2	リフレッシュスペース			3.0	0.11		-	
3	内装計画			1.0	0.78		-	
1.3 維持管理				3.5	0.30		-	
1	維持管理に配慮した設計			4.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保			3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30		-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.1	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数	R		3.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R		2.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R		3.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R		4.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		5.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	R		2.0	0.20		-	
2.4 信頼性				2.8	0.20		-	
1	空調・換気設備			3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備			2.0	0.20		-	
3	電気設備			3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備			3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性				3.3	0.30		-	3.3
3.1 空間のゆとり				4.0	0.30		-	
1	階高のゆとり			4.0	0.20		-	
2	空間の形状・自由さ			4.0	0.80		-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.40		-	
1	空調配管の更新性			3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性			3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性			3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性			3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性			3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30		-	2.2
1 生物環境の保全と創出				G	W	H		1.0
2 まちなみ・景観への配慮				G				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮								2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上								3.0
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W	H		2.0

LR 建築物の環境負荷低減性									3.3	
LR1 エネルギー								0.40	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制	W		H	レベル5の評価基準「BPI _m 0.80以下」とする	5.0	0.20			5.0	
2 自然エネルギー利用	W		H		3.0	0.10			3.0	
3 設備システムの高効率化	W		H	[BE][BE _m] = 0.74	3.9	0.50			3.9	
4 効率的運用					3.0	0.20			3.0	
集合住宅以外の評価					3.0	1.00				
4.1 モニタリング	W		H		3.0	0.50				
4.2 運用管理体制	W		H		3.0	0.50				
集合住宅の評価										
4.1 モニタリング	W		H							
4.2 運用管理体制	W		H							
LR2 資源・マテリアル								0.30	-	2.7
1 水資源保護	W	R			2.2	0.20			2.2	
1.1 節水					1.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	0.70				
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.30				
2 非再生性資源の使用量削減					2.6	0.60			2.6	
2.1 材料使用量の削減	W	R			2.0	0.10				
2.2 既存建築躯体等の継続使用	W	R			3.0	0.20				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	W	R			3.0	0.20				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W	R			1.0	0.20				
2.5 持続可能な森林から産出された木材	W	R			2.0	0.10				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	W	R		GL工法、LGS工法を採用している。	4.0	0.20				
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.7	0.20			3.7	
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30				
3.2 フロン・ハロンの回避					4.0	0.70				
1 消火剤	W				-	-				
2 発泡剤(断熱材等)	W			発泡剤を用いた断熱材を使用していない。	5.0	0.50				
3 冷媒	W				3.0	0.50				
LR3 敷地外環境								0.30	-	3.2
1 地球温暖化への配慮	W			ライフサイクルCO2排出率:80%	3.8	0.33			3.8	
2 地域環境への配慮					2.8	0.33			2.8	
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善	G	W	H		3.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.2	0.25				
1 雨水排水負荷低減			R		3.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制			R		3.0	0.25				
3 交通負荷抑制			R		2.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制			R		1.0	0.25				
3 周辺環境への配慮					3.1	0.33			3.1	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40				
1 騒音					3.0	1.00				
2 振動					-	-				
3 悪臭					-	-				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40				
1 風害の抑制					3.0	0.70				
2 砂塵の抑制										
3 日照障害の抑制					3.0	0.30				
3.3 光害の抑制					3.7	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				「光害対策ガイドラインのチェックリストの一部を満たし、屋外広告照明を設置しない」	4.0	0.70				
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30				